



第1回 洞爺湖の自然を残そう (ウチダザリガニや外来種が与える影響) 2007年6月30日(土) ~ 7月1日(日)

仲間づくり



洞爺湖の自然を残そう!をテーマにレンジャーと一緒にキャンプが行われました。支笏洞爺国立公園でレンジャーが普段どんな活動をしているのか子ども達も子どもパークレンジャーとして活動しました。まず初めにみんなの前でどんなことが楽しみかを発表し、簡単なゲームをして新しい仲間と仲良くなりました。財田自然体験ハウス前のビオトープでは子どもたちが、カエル、おたまじゃくし、ヤマメ、ふくどじょう、ヨシノボリ、ヤゴ、トビムシ、アメンボなど沢山の生き物を見つけました。みんなで見つけた生き物を模造紙に書き込み生き物マップを作りました。

生きものマップ



ビオトープづくり



ビオトープ内のドロノキやヤナギなどの木々を見ながら全体のバランスを考えて成長阻害しているような木を切りました。人間の作ったビオトープは管理しないとそこに棲む生物や植物の環境が変わることを知りました。夕食はみんなが頑張って張ったテント前で、グループごとにいろんな種類のカレーを作りどのカレーが一番おいしいか?カレーコンテストをしました。こんな活動を通して仲間との協調性も生まれます。夕食後は洞爺湖畔沿いのトレイルを歩き、夜の森を体験しました。

カレーコンテスト



ウチダザリガニ調査



2日目は、洞爺湖畔に生息する外来生物ウチダザリガニを観察・調査をしました。ウチダザリガニがどうして増えてしまったのか?在来生物にどんな影響があるのか?を学び、普段レンジャーが行っている個体調査を体験しました。ボランティアダイバーさんに湖へ潜ってもらい、ウチダザリガニをかごに入れてもらいます。そのウチダザリガニの体重、性別、大きさを子ども達が計測しました。最初はびくびくしながらも次第に慣れてきて約500匹弱の調査をしてもらいました。今回は、最終で719匹を捕獲しました。捕獲した後は、どこかへ持って行ったり、飼ったりは出来ないの、茹でてみんなで食べました。味はロブスターみたいで、ほとんどの人がおいしいおいしいと言っていました。調査後は、財田体験ハウスにてウチダザリガニをどうしたら減らしていけるかをグループで話し合いました。捕獲したザリガニを水族館で飼って動物のえさにする、ザリガニをおいしく料理して販売し、その売上金を捕獲してもらったダイバーさんに還元するなどの意見が出ました。子どもたちは大人が気づかないような小さなことも沢山知っています。このキャンプを通して子どもたちがそれぞれ自然の大切さを考えるきっかけを作ることができたのではないのでしょうか。

ザリガニ対策案づくり



活動場所
財田自然体験ハウス、
洞爺湖畔

参加者
小・中学生 19名